

令和3年 3月 26日

森町長 太田康雄 様

公立森町病院経営改革プラン評価委員会  
委員長 高橋 泰

令和2年度森町病院事業経営改革プラン評価委員会 意見書

森町病院事業経営改革プラン評価委員会において、令和2年度取り組み結果・評価及び令和3年度事業計画（案）について協議した結果、以下のとおり意見書として提出する。

評価総括：コロナの影響により、患者は受診抑制等が働き減少する前提で考え、入院より、在宅医療・家庭医療・訪問看護ステーションに資源を投ずる。また、予防医療や健診も含めてプレホスピタルの領域にもターゲットを求めていく。在宅医療と介護を連携して森町の地域包括システムを強化する方向で進め、在宅診療の件数を増やし、1回の往診での訪問件数を増やし在宅医療の採算性を向上させる検討も行う。オンラインを使って必要な患者を診つつ訪問も行う。

家庭医の在宅医療や外来機能・かかりつけ医機能から、バックアップ入院に繋げるようにする。

住民と病院との協力体制を維持し、生活支援もサポートできるように、さらに強化していく。

(1) 令和2年度 第4次経営改革プラン取組結果・評価について

①患者バス・移動支援の状況について

浜松市の水窪では、以前は巡回バスがあったが、利用者の減少や補助金が減らされたりして確保に苦労している。今後、超高齢化社会となれば、受診困難者・通院困難者が出てくると思うが、外来患者数を確保するために、患者バスを走らせたり、社会福祉協議会が移動支援を行ったり、森町は町ぐるみで取り組んでいることが大変素晴らしい。

②家庭医の病院への貢献・関与について

最も大きい貢献は、当直をしていること。病院の常勤医師の平均年齢は50歳を超えている。病院の常勤医の当直が30～40%位で、その他は、外勤の医師や家庭医が行っており、常勤医の負担が減った。在宅医療は家庭医がかなり担当している。

③超過勤務時間の削減について

超過勤務時間の削減に各部署で取り組み、前年度比16.1%の減となり大きな成果を上げているが、時間外の患者が減り、その結果時間外労働が減ったということで、必ずしも職員の努力の結果だけでない部分もある。前年度は時間外勤務の請求を適正に管理したため、一時的に増えた部分もある。医療現場の時間外勤務が増えるのは、患者が時間外に増えることも要因となるので、予防医療に力を入れて、日頃からかかりつけ医を持って健康管理をしていけば、時間外に受診する必要もなくなるので、この取り組みをすることが、最大の医師の働き方改革となる。

④小児科について

コロナの影響で、患者は症状が軽い場合は受診抑制が効いて、小児科ではその傾向が顕著。町として小児科医療をどのようにしていくか考えなければならない。

⑤在宅医療の単価について

民間の在宅医療と比べると単価が低い。今の単価では、やればやるほど赤字になる可能性があるので単価を上げなければならない。

⑥資源の投入について

内科の患者がかなり減っており、その患者がどのような患者か分析しなくてはならない。令和3年度の目標値で入院収益に期待を持っていいのかには疑問があり、入院より在宅医療・家庭医療・訪問看護ステーションなどに資源を投入して稼ぐのが一般的な考え方ではないか。

(2) 令和3年度 事業計画(案)について

①プレホスピタルの領域にターゲットを求めることについて

地域住民を守る意味では、外来・在宅をベースにどれくらい範囲を広げられるか、診療より介護あるいは予防医療の部分を家庭医がどのような形で地域をラウンドできるかが一番ベースにあるべき。予防医療や健診も含めてプレホスピタルの領域にターゲットを求めていくことが大事。

②森町病院の目指す方向性について

森町病院は在宅ベースの支援型の形に変わっていき、オンラインを使って必要な患者を診つつ訪問をするという病院の資源をダウンサイジングして、在宅の方に使っていくという方向性を出すべき時期に来ている。在宅医療と介護を連携して地域包括に繋げるといのが国の全体の方向であり、森町は基本的にはその方向性を目指し地域包括ケアシステムを強化していくべき。また、家庭医の基本は在宅医療や外来機能・かかりつけ医機能であるが、その中でバックアップ入院を提供するように、家庭医療クリニックと一緒に森町病院が地域包括ケアシステムを動かす形にする。

③コロナ感染症対策の森町病院の役割

コロナに関しては、変異株とワクチン接種の折り合いがどこで付くのかで、6月～7月までは予断を許さない。よってそこまでは、コロナに関しては空床補償を使って、回復期病棟を空けるのが地域における森町病院の役割である。

④地域医療におけるボランティアの活動について

病院ボランティアでありがたいのは、病院に来られない人を巡回診療所まで連れてきてくれること。そのボランティアをいかに続行していくかが大事。また、お互いに声を掛け合って、容態の悪化した方がいたら早めに教えるという、お互いの見守り機能が柱になる。ボランティアとして今までやってきたことは継続し、在宅医療が進んだ場合、生活支援もサポートできるように、行政と相談しながら進めていく。

【日時】 令和3年3月13日（土）午後1時00分～午後3時47分

【場所】 家庭医療センター 会議室

【協議事項】

- (1) 令和2年度 第4次経営改革プラン取組結果・評価について
- (2) 令和3年度事業計画（案）について

【報告事項】

- (1) 第5次経営改革プランの策定について

【出席者】

公立森町病院経営改革プラン評価委員会出席者名簿(敬称略)

	氏名	役職等	出席
委員長	高橋 泰	国際医療福祉大学大学院教授	出席
委員	小林利彦	浜松医科大学附属病院 医療福祉支援センター長	出席
	松井 務	浜松医科大学特任准教授	出席
	木村雅芳	静岡県西部保健所長	出席
	鈴木勝之	磐周医師会長	出席
	岩谷信行	森町医会代表	欠席
	川崎義夫	学識経験者	出席
	亀沢 進	森町議会議長	出席
	高野一利	森町病院友の会会長	出席
	佐藤嘉彦	森町役場企画財政課長	出席
	平田章浩	森町役場保健福祉課長	出席
	中村昌樹	公立森町病院長	出席
	鳥居孝文	公立森町病院事務局長	出席

計 13 名